

ふくしまの森林文化調査カード

No.24

県 HP公開 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 2. 森の恵み 3. 森と技 4. 森と暮らし 5. 森の文化財 6. 森の風景	
分野(ふりがな)	(分野) 農村歌舞伎	(ふりがな) のうそんかぶき
地域独特の呼び方	—	—
タイトル	檜枝岐歌舞伎	
伝承地域	南会津郡檜枝岐村	
由来	檜枝岐歌舞伎の起源は、現存する資料に260年前に購入された浄瑠璃本が残っていることから、江戸時代にまで遡る。江戸の中期、寛政・文化時代から260年以上の歴史を持つ農民芸能は、先祖が伊勢神宮に参拝した折に江戸で檜舞台の歌舞伎を観劇し、見よう見まねで村に伝えたと言われ、今日まで父から子へ、子から孫へと継承されてきた。	
内容	檜枝岐歌舞伎には、江戸の華であった歌舞伎そのものの姿、浄瑠璃が息づいている。毎年5月12日の「愛宕神祭礼」、8月18日の「鎮守神祭礼」に、鎮守神境内にある舞台(舞殿(まいでん))で村の神に奉納する形で歌舞伎が上演される。座の名称は「千葉之家花駒座」、座長は9代目星利弘氏、座員は裏方もふくめ約30名。春と秋の祭礼に奉納歌舞伎として村人を楽しませてきましたが、近年は現代まで引き継がれている貴重な農民芸能として脚光を集め、上演の際には県内外から多くの観衆が訪れる。	
文化財等の指定状況	平成11年3月、「福島県重要無形民俗文化財」に指定。	
問い合わせ先	檜枝岐村教育委員会 (Tel: 0241-75-2342)	

【フリーフォーマット】

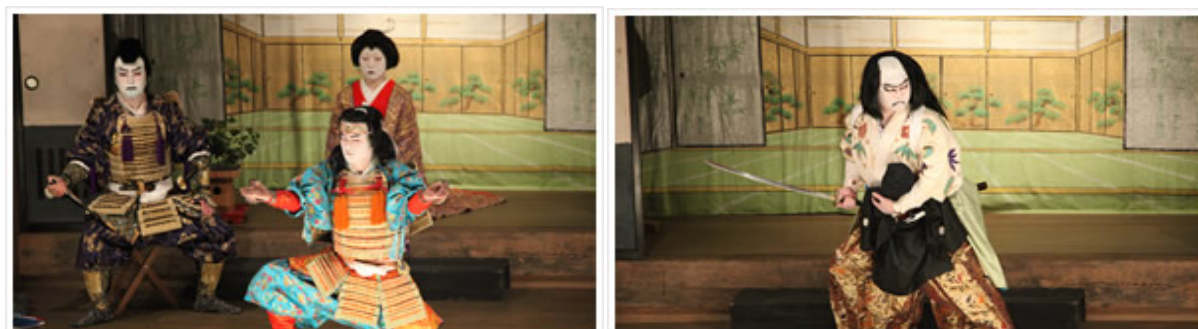
キーワード

◇千葉之家花駒座

千葉之家花駒座は、毎年5月12日の「愛宕神祭礼」、8月18日の「鎮守神祭礼」に、鎮守神境内にある舞台（舞殿（まいでん））で歌舞伎を奉納している。座長は10代目星長一氏、座員は裏方も含め約30名。村民により連綿と受け継がれてきた伝統芸能である。春と秋の祭礼奉納など年3回の上演の際には、多くの観客を集めるとともに、その演技への評価も高く、2004（平成16）年には、東京・国立劇場で単独公演も行っている。



伝統芸能・檜枝岐歌舞伎



写真提供：檜枝岐村（TEL：0241-75-2342）、檜枝岐村観光協会（TEL：0241-75-2432）